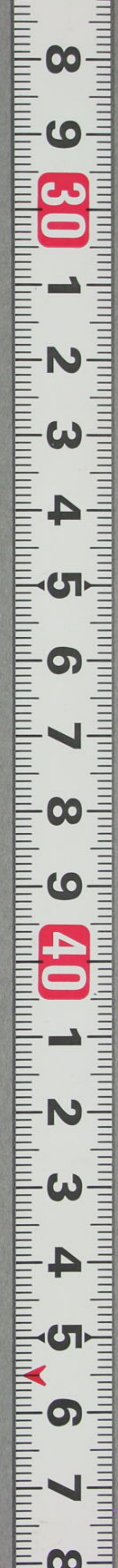




山東庵京山譯
稗史
水滸傳
三編
上卷
歌川國芳画

耕書堂

~ 13
3812
3



山東庵京山譯 文政丑春
 稗史水滸傳三編
 歌川國芳画 上卷

寛政壬子の春京傳海繪本水滸傳を再
 譯してなま世に發行す故今日編成補以画作藝
 殊異は以て新編と名づけし主款諸賢一覽成
 成して再洋城賜ハ幸甚と耕書堂款白

山東庵

分三近代亂離間一旦雲开復見
 天草亦百年新雨露車書萬至
 旧江山居常巷陌陳旌待幾多樓
 臺素蒙後人樂太平每夕日暮
 去每恨日暮賦

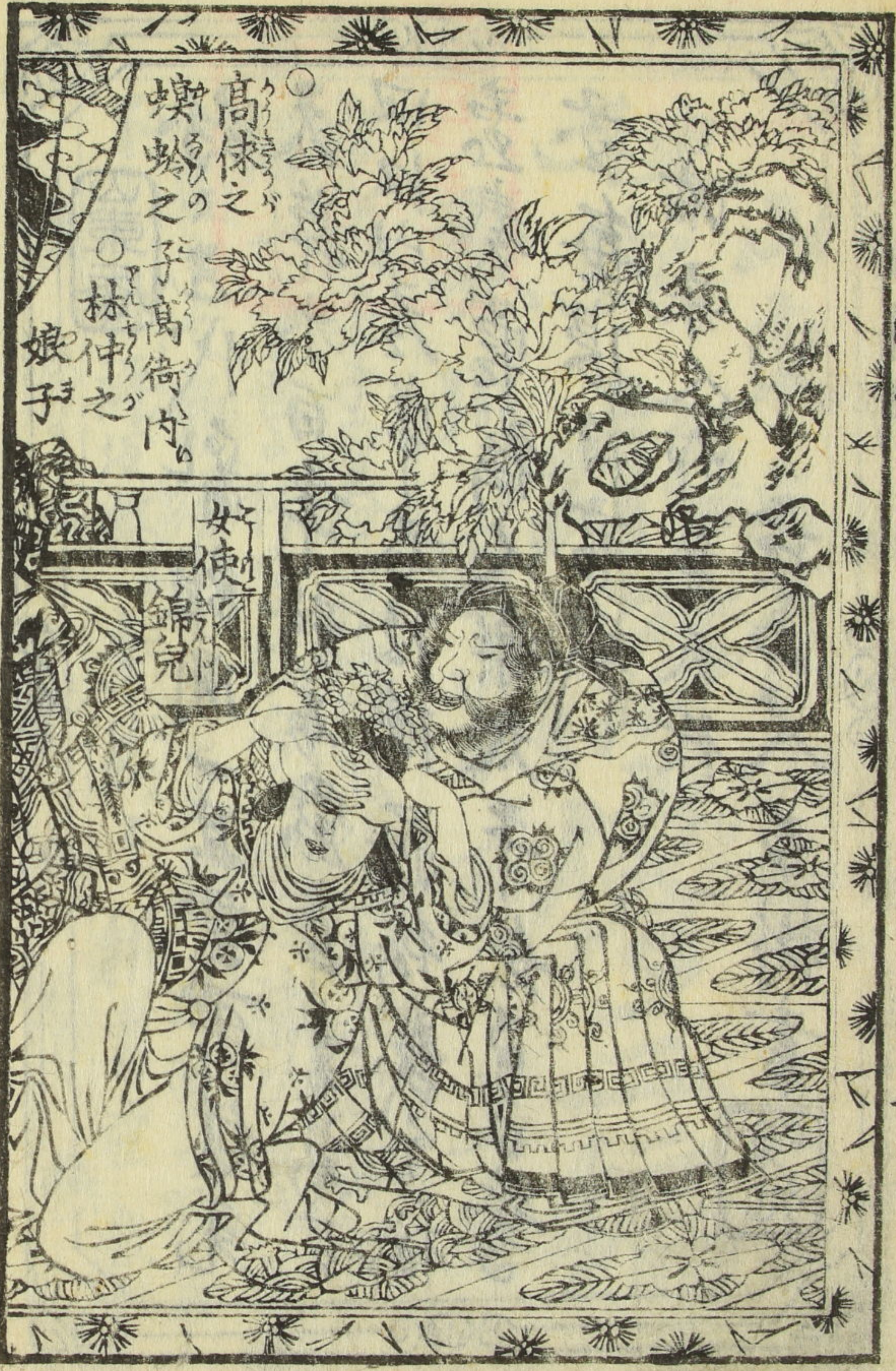
右宋人邵堯天作

京山人石樹書

涂旭

水滸傳

水降



高休之
 燦之
 子高内
 林仲之
 娘于



下宮
董超
薛霸



花和尚
魯智深

此甘んぬるものごとくおはせし間
もよりれおはせしは求めはせしとておは

初音のつねかて魯連ハ新妓の舞蓮が
父に金銀のたまをもちまうこのつねか
おさめりつねかといふことを
まうとて舞蓮に

去申のつねかて
九段高木のおつねかといふ
さうおつねかをもちまうとて舞蓮が
父に金銀のたまをもちまうとて舞蓮が
その金銀のたまをもちまうとて舞蓮が
さこの東京にあらる舞蓮のつねか
さうおつねかをもちまうとて舞蓮が
うけておつねかをもちまうとて舞蓮が
ころをもちまうとて舞蓮が
あらる舞蓮のつねか

金翠蓮



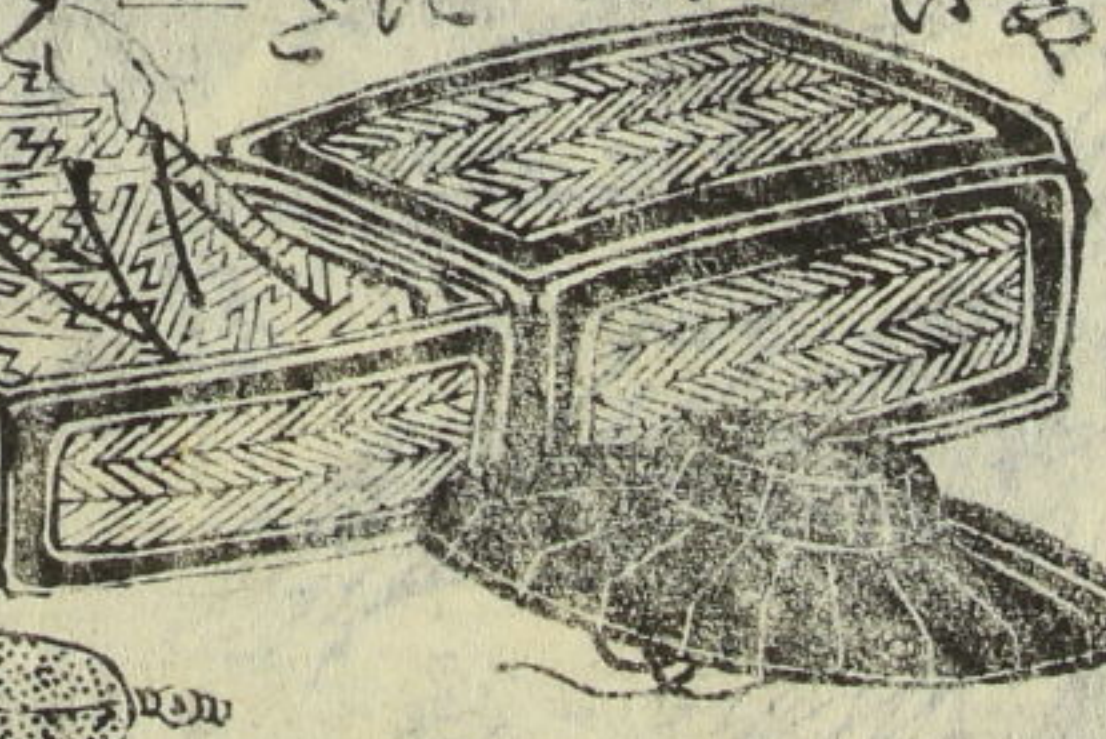
三海也



八万
禁軍
鎗捧
教頭
林
仲
獅子頭

金老時

この書は...
一由...の録...
...
...
...



つじ 魯達を海濱にたもと
ゆいおろそふ先かきやう
のこをたてていまはま
つけてまの夜にこの
かかろかんこけいあま
心緒は骨に鏡て生
目すれやまきとあま
うまうまうこひて九
本忠にもいとあごひ
かまろりかくて九
平達につけて
るさろひのた
うり法関西うと後
かあひちりしてはた
さるにまき夜の
まらあろりこのにま
あやのたごまろり
こびの月の夜
すい

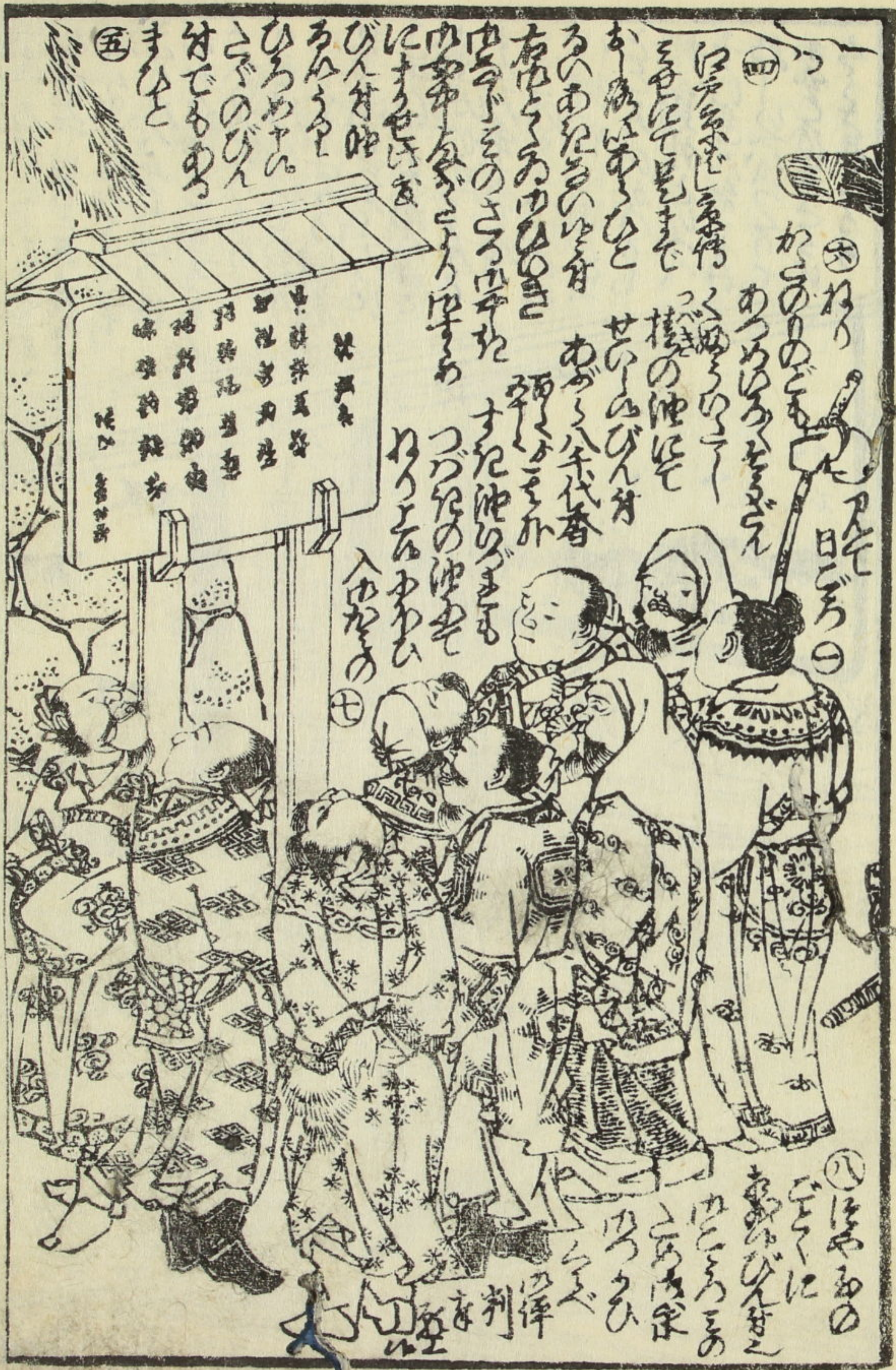


平達につけて
るさろひのた
うり法関西うと後
かあひちりしてはた
さるにまき夜の
まらあろりこのにま
あやのたごまろり
こびの月の夜
すい

て具をもつて
えうまうたか
糊をのいでゆ
まうぬまわの
あろまてん
このるたわ
こまろり
くふろり
をかりひま
つよい
かりひも
うろも
くまの
ゆいせう
ういなる
るま
むらぐ
のふら
いつい
まふ



あま
おま
にま
○ふ
あま
おま
にま
○ふ



⑤
 びんがゆ
 ひろあや
 びんがゆ
 まは

申渡す
 申渡す
 申渡す
 申渡す
 申渡す

④
 けり
 けり
 けり
 けり
 けり

①
 けり
 けり
 けり
 けり
 けり



進蓮
 進蓮

②
 けり
 けり
 けり
 けり
 けり

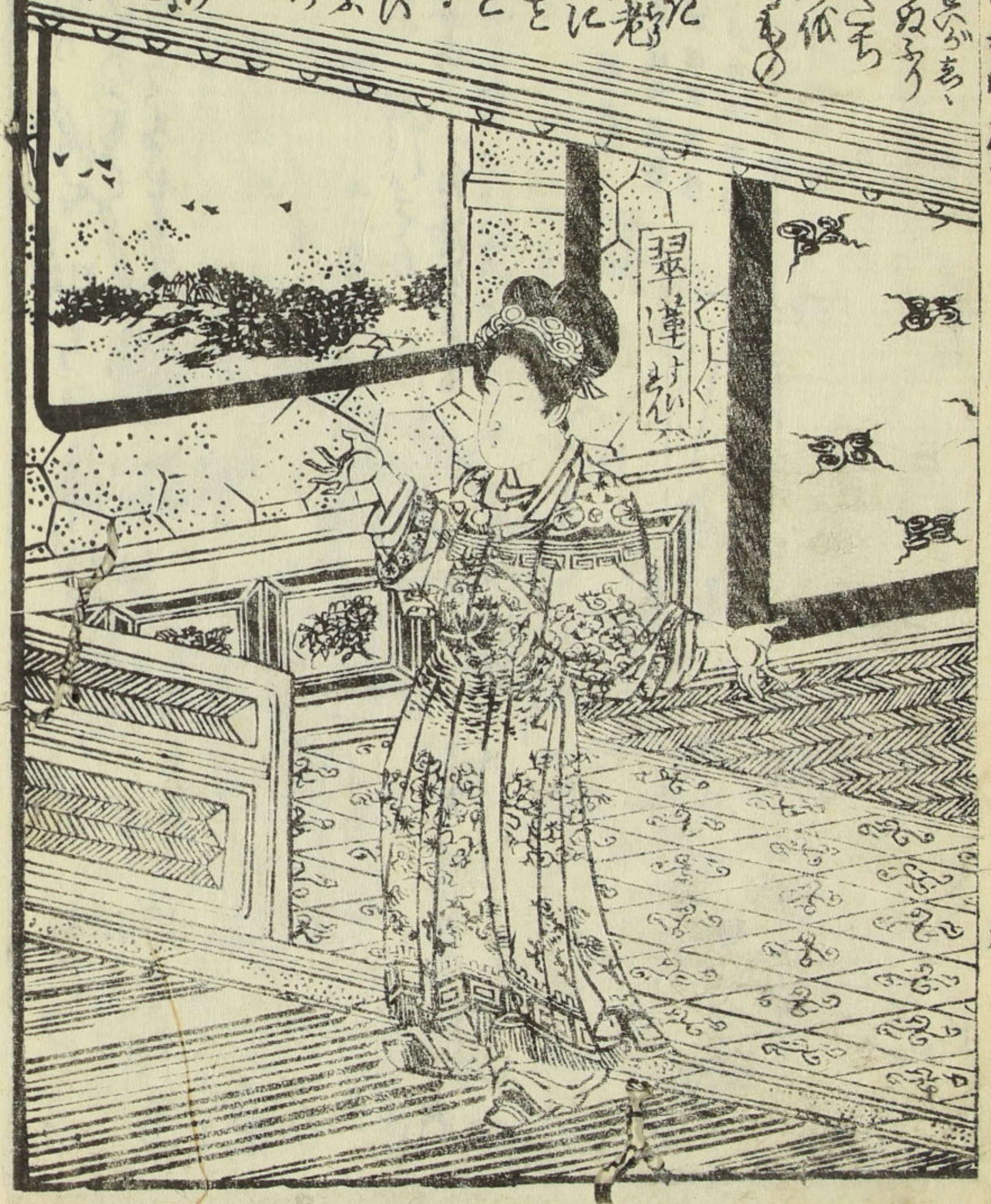
金老
 金老
 金老
 金老
 金老

七

七

右の如く

つぎのちんをんせふがき、
たけをてつくさるぬき、
坂よりあかしくとて
さうなるうちうの依
おとれてさるるもの
一人おむりたり
おそれのさそあて
こよまこよの金巻
翠蓮らるるろに
手けるもゆきまを
軒下にかると
すろれおてゆ
さるのさるるにわい
代別門懸とま
とさるのさるる
趣外といふ人
すいふんをてけ
あてあてつるて
あてあてつるに
くさるけるが



は人男ぬりも
くぐりても
まごられたものされが
すのせん事といひま
かのゆきもあつらり
くじらりさてある日金巻
ちまこにゆららあ
とふかへるこちゆら
人あわくのりまりて
入る人合巻もまろりて
これゆがるに覺
徳隣田舎おとるして
うけあちおしてゆき
これゆがるあてま
ものぬき手巻の
わらびゆきんたの
あり今巻もまろ
ててたふあ
まごつるるさ
ものふるさるるこ



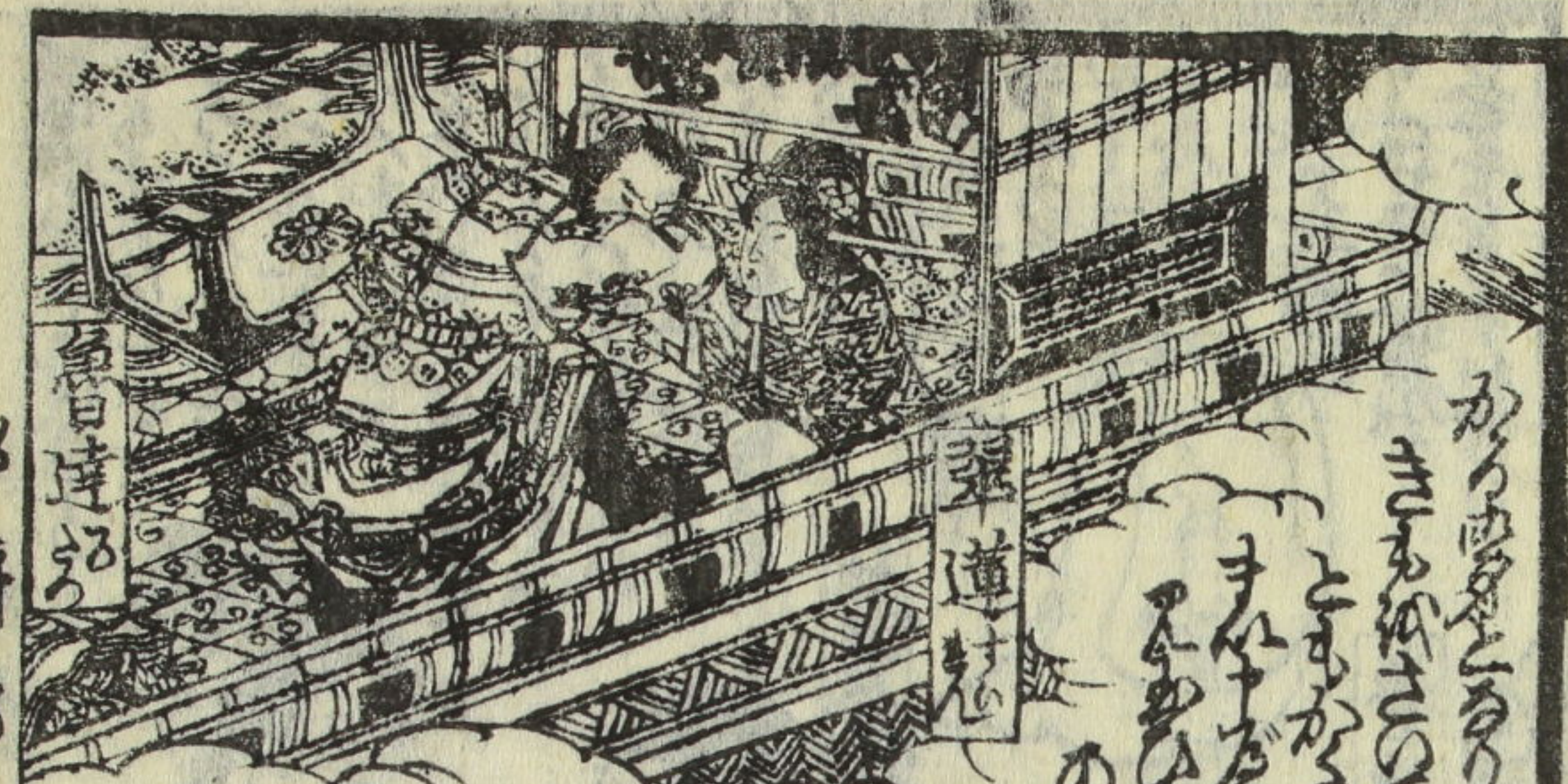
右の如く

魯達

七



今の身の上は... 趙貞外遊



かゝる時節... 張道軒



金老翁... 趙貞外遊

耕書堂藏梓目録

<p>新六行 義大夫拔本問屋 萬屋重三郎版</p>	<p>富本豊前大夫直傳正本所 江戸小傳馬町三丁目</p>	<p>美艶仙女香四十八冊 黒油美去木百八冊 坂本氏製</p>	<p>滑稽水滸傳 陽春閣戲作 北尾重政画 丑新板中本三冊</p>	<p>新吉原 五葉松 中本全冊 毎月改</p>	<p>梅枝物語 出巻の巻と和文の巻 六樹園大八著 柿がえの淨瑠璃と和文の巻</p>	<p>稗史水滸傳 山東京山譯 歌川国芳画 丑新板中本袋入</p>	<p>風話師引上戸 十返舎一九作 丑新板全一冊</p>	<p>笑話初子侍 同 全一冊</p>	<p>笑話新形添 同 全一冊</p>	<p>笑話瓢百集 瓢亭百成作 全一冊</p>	<p>教訓老農夜話 周監齋著 全一冊</p>	<p>長唄ゆきを巻 松古本</p>	<p>諸色枕昔古本品々小巻</p>	<p>靈方 經王七字圓一包</p>
---------------------------	------------------------------	--	----------------------------------	-------------------------	---	----------------------------------	-----------------------------	--------------------	--------------------	------------------------	------------------------	-------------------	-------------------	-------------------



日中手紙に云ぬを
すうころ金老翁が
門ばんにあわく
の人をこきこへ
ル多ぶこころを
もてんとて官人
よせころをこき
わりのあつたけり
ろろつとれぬま
ころのせきしを
ひつたこれぬ
まま一人の寢
馬小の
のまこの
まのまを
てんふ
りこせ金老翁が
のをとりまけり

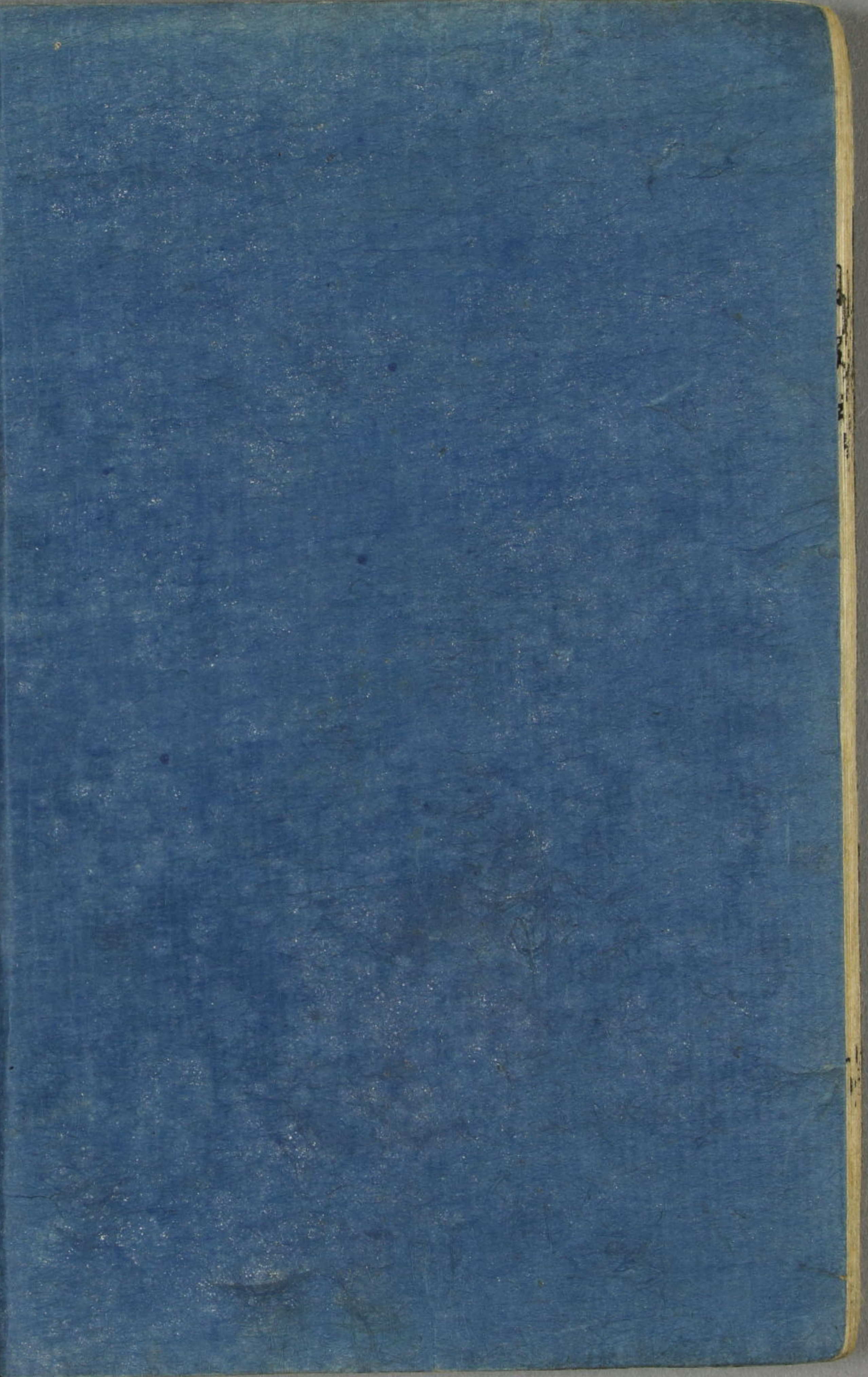
翠蓮花

金老翁

十

稗史
水滸傳
山東庵京山譯
歌川國芳画
下卷
三編

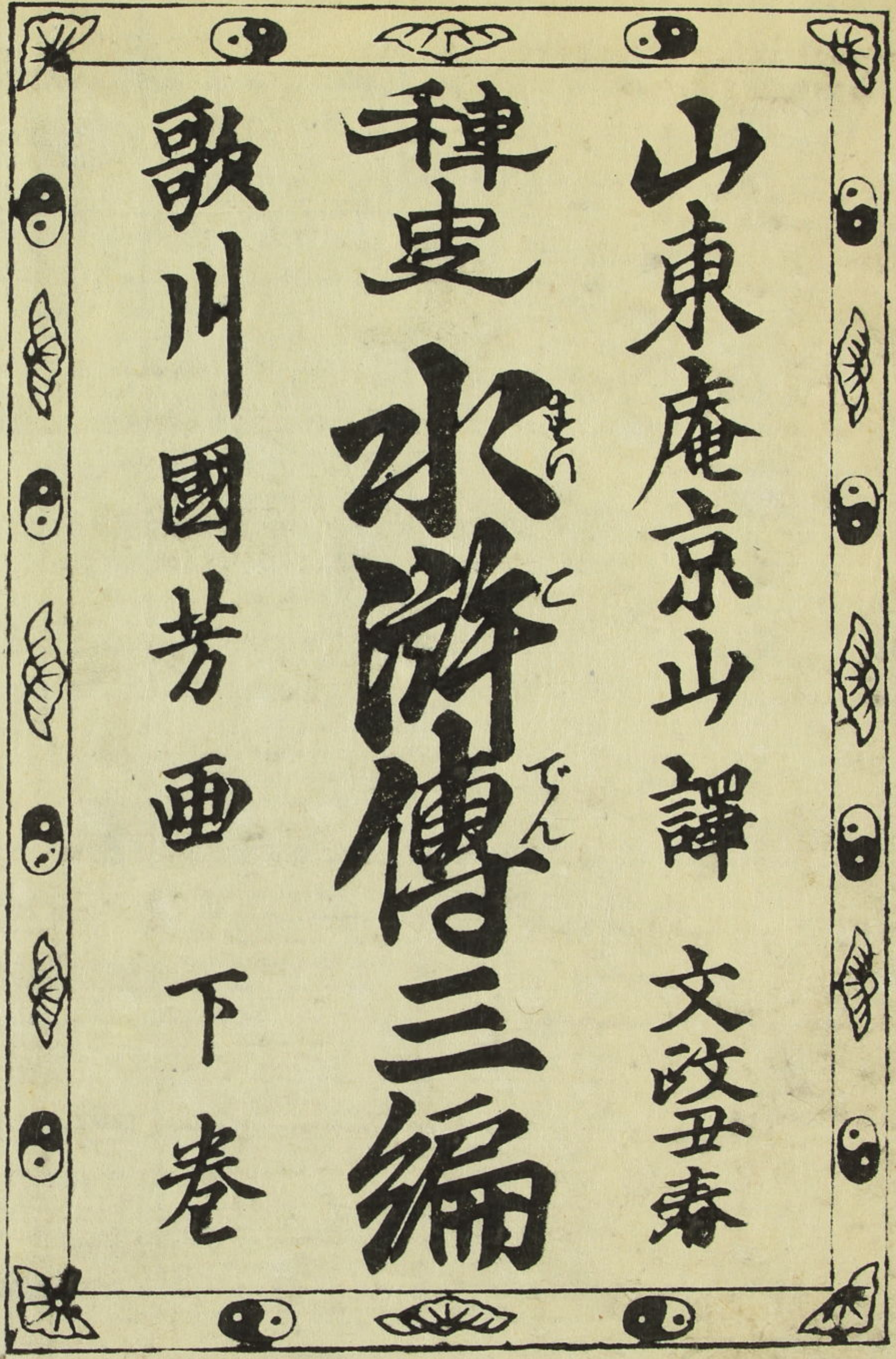
耕書堂



山東庵京山譯 文政丑春

稗史水滸傳三編

歌川國芳画 下卷



金老もろろつらつら
ろよりこれゆきて
わろこしとくこを
かけあてあて
わてのての
官人のまぶさ
たのあふさ
ひまらに
さす
官人太に
こしひまら
こすわきこの人
けおさあ
ありて金老を
ろろふむろ
ろへんま
のふく
ろく



わすりこ
わすりこ
めい
か
負外
と



まつていふの兄弟のこころ
 は山ふのかやして止る
 あつたをさすりたじしてさ
 この一と命きつた下りさ
 おろすふありのあつたさ
 のろんとつらつらさつらさ
 今とつらつらさつらさ
 いくさつらつらさつらさ
 出立してさつらつらさ
 ひとすつらつらさつらさ
 ひとりの人をさつらつらさ
 ねがひもつらつらさつらさ
 こころもつらつらさつらさ
 るの手でつらつらさつらさ
 有るつらつらさつらさ
 ひとりのつらつらさつらさ
 長巻につらつらさつらさ
 のつらつらさつらさ
 なるつらつらさつらさ
 とつらつらさつらさ

長巻



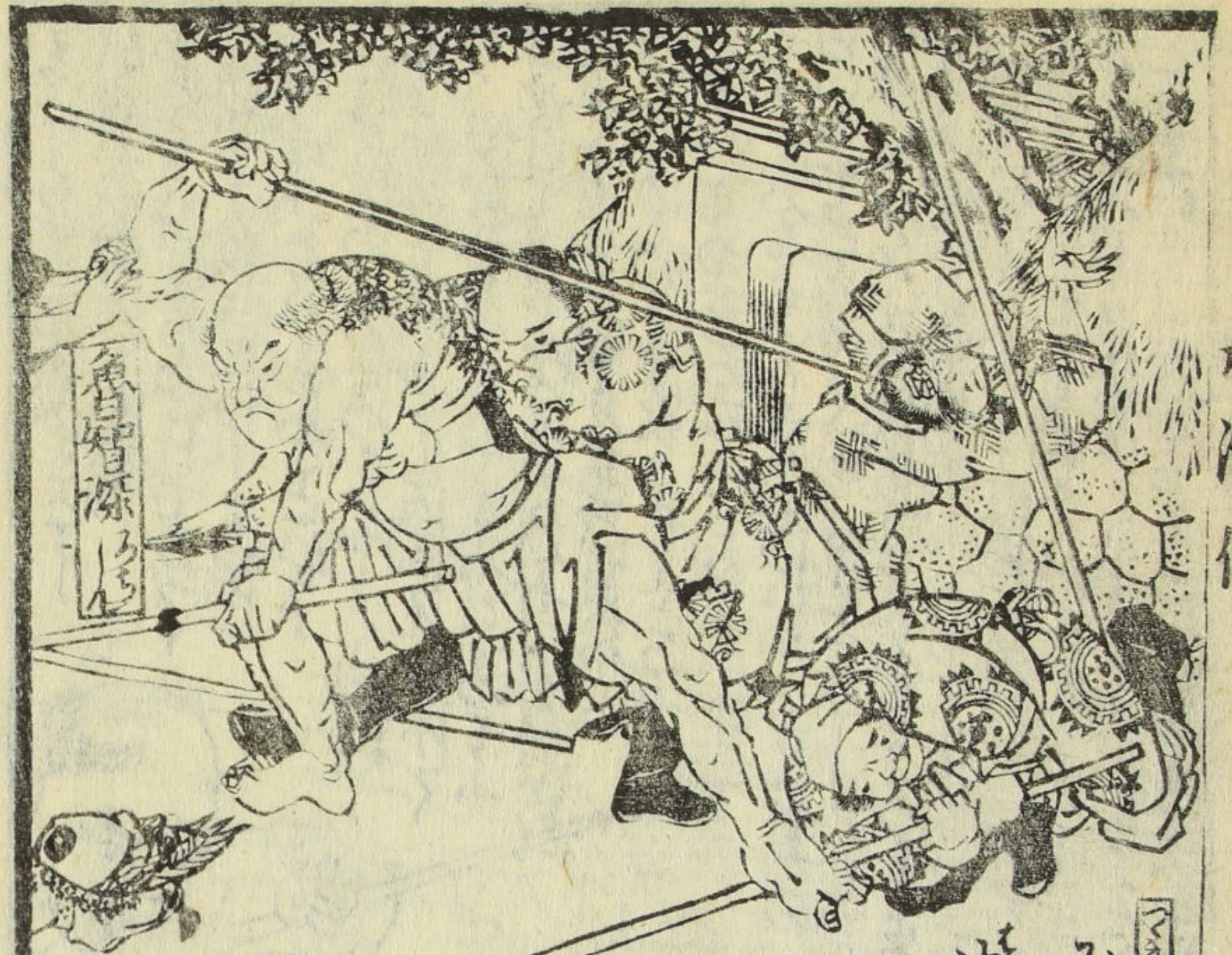
文もさ一得存
 つた
 花和尚
 僧の
 ていさつ
 道場
 當時の注職
 和真長老

①むさひむさひさつらつら
 かのつらつらつらつら
 出立つらつらつらつら
 るんぢつらつらつらつら

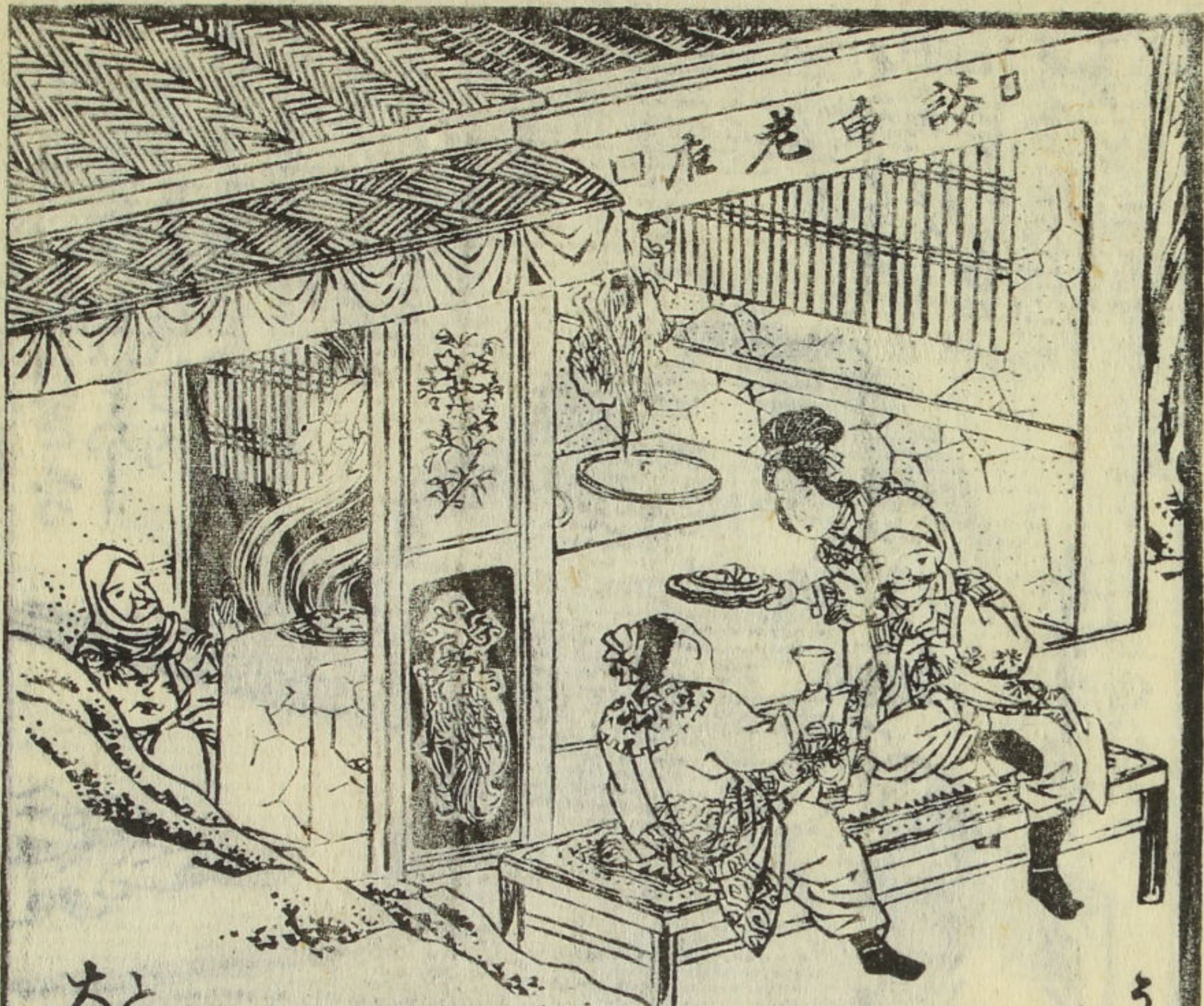
②つらつらつらつら
 佛果つらつらつらつら
 のつらつらつらつら
 さつらつらつらつら



まことのすりにすりかやして
 随影をうがれけつうくあひた
 俗のりうとてなまの日用をうか
 酒をのまざる日給 担負分
 己れぬすめて出家させしより
 この酒内へあひぬごにうぢ
 けびりの負かすりもかごせあるて
 ナニイマゴトカミテのけり 桶なる
 のまごかこひとつぬかまて一も
 一も一人の男桶をかひるひうこ
 うこの酒なる山をのびるまご
 おれりく亭子に入きてやすきなり
 ろちあんまりうけ桶なる酒
 きんけんしたあやとりのとすろこひ
 かけあひるふぞとぞれはまごをこ
 して酒のりとのふるちんとはぬ
 うまごのりたふあまろき桶都
 とくちあああるこのてりにてかん
 さぬふ酒をうかまごびりまご
 たらとるこの酒の男ゆに



おろかろ大樽の樽いひつとまきりに
 不れあひれぬてどまごもゆくまひ
 只仏とちてちりぞれたりのかそ次の日
 海慈をひくろてろろを精製せしり
 名を善智深とての寺内のおすま
 めん念修堂にすぬせしりこのそ
 りあしん四五人の学僧とまごにこの
 念修堂をまのりなるがろこのま
 石のいすまてまごにまのり
 のふれまごの形體ありぬれ首鹿の
 つはうれまごも善智深なるの
 毛老の内ひあたるらるるまごも
 ゆりあれてとりあまのまごも
 さろいれぬるあまごもこのけ
 のにすてあれたりのまごも
 とふあつと四五月をかをにす
 符のまごめにてり天きつたて
 うらうらなるにちやうぶひたり
 山門をいでのちこもゆまごのま
 山のまごにぬるまごまご



うつて三桶と取
 ものきあひいすふげ
 さりなりちあん
 これれまてかうこま
 こまひこのままちふ
 ままのいして定附
 まりの身をまわらう
 酒の氣あごのふこた
 のちりちあふのくわ
 ままのいして定附
 めきせあうに入ある
 花のいろまきくあ
 ちやく東にちあは
 いちりねのいんこ
 ちたおとらき酒を
 山るれいんこ
 二人のいんこは
 とちあまきりにい
 ちあふり二人のい
 これれまてかうこ
 山内を

ら
年
ち

十五

酒肉飯
 けさアールとバ
 身うちびもこと
 していれま
 これれえむたも
 つゆめたはさか
 ちくんとするは
 とびくろくまけ
 ひきこああしを
 あげとまこと
 けさアールとバ
 身うちびもこと
 していれま
 これれえむたも

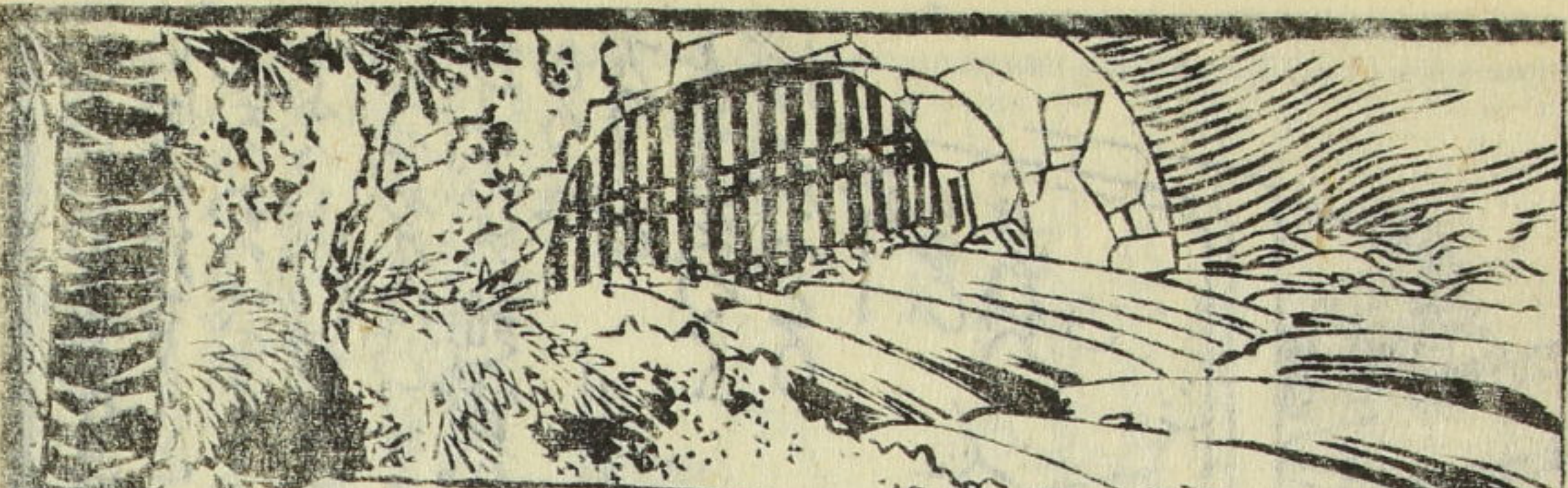


酒肉飯

魯智深は

酒をこころほげのまに一桶の酒を
 のまわしけつとれたをこころま
 ちたあがりてまのいんこ

水
流
何



○ 劉太公はちちし山門をきき五月八日城つとまり
 さして五月二日の夜籠いとのどろおろおろあつぬと
 山りのそととまいでゆちこもの
 ふくけの
 まつりこすま
 けらあやう
 ぬもよのかこは
 えん
 えん
 ひくあをかまら
 まつりこすま
 智深とねわのや
 しとひなを
 うらねとそのやう
 入らぬはあつらの村を
 酒をさるるゆり
 はだかかかひな
 うらあかちちちち
 おとけりあつちんか
 入りて劉太公に



○ 劉太公はちちし山門をきき五月八日城つとまり
 さして五月二日の夜籠いとのどろおろおろあつぬと
 山りのそととまいでゆちこもの
 ふくけの
 まつりこすま
 けらあやう
 ぬもよのかこは
 えん
 えん
 ひくあをかまら
 まつりこすま
 智深とねわのや
 しとひなを
 うらねとそのやう
 入らぬはあつらの村を
 酒をさるるゆり
 はだかかかひな
 うらあかちちちち
 おとけりあつちんか
 入りて劉太公に

○ 劉太公はちちし山門をきき五月八日城つとまり
 さして五月二日の夜籠いとのどろおろおろあつぬと
 山りのそととまいでゆちこもの
 ふくけの
 まつりこすま
 けらあやう
 ぬもよのかこは
 えん
 えん
 ひくあをかまら
 まつりこすま
 智深とねわのや
 しとひなを
 うらねとそのやう
 入らぬはあつらの村を
 酒をさるるゆり
 はだかかかひな
 うらあかちちちち
 おとけりあつちんか
 入りて劉太公に





三王の口をんたふ
 のちりて
 むふ
 をえ
 まば
 ろち
 れい
 ろに
 こりてちふ

魚智深る

劉太公

三王の口をんたふ
 のちりて
 むふ
 をえ
 まば
 ろち
 れい
 ろに
 こりてちふ



三王の口をんたふ
 のちりて
 むふ
 をえ
 まば
 ろち
 れい
 ろに
 こりてちふ

三王の口

三王の口をんたふ
 のちりて
 むふ
 をえ
 まば
 ろち
 れい
 ろに
 こりてちふ



にとらやまう時
 テ二品すたに
 そろひのれが
 戒がが
 戒がが
 戒がが
 大相国寺
 とのそらり
 〇それのそ
 おれとに
 大相国寺
 の大相国寺
 〇それのそ
 おれとに
 大相国寺
 の大相国寺
 〇それのそ
 おれとに

水 14

十九



〇それのそ
 おれとに
 大相国寺
 の大相国寺
 〇それのそ
 おれとに
 大相国寺
 の大相国寺
 〇それのそ
 おれとに
 大相国寺
 の大相国寺
 〇それのそ
 おれとに
 大相国寺
 の大相国寺
 〇それのそ
 おれとに
 大相国寺
 の大相国寺



同は けいごのあつあつはかまびるすんは 劉太公の
 ほの二人のむすあやのまじりては 劉太公
 とす六十にむすあやひなはなりのむすあやのま
 たうらうとすあやのまじりては 劉太公
 志うも十ねんの美人あやにむすあや
 むすあやのまじりては 劉太公
 劉太公のまじりては 劉太公
 劉太公のまじりては 劉太公
 劉太公のまじりては 劉太公
 劉太公のまじりては 劉太公
 劉太公のまじりては 劉太公
 劉太公のまじりては 劉太公
 劉太公のまじりては 劉太公

劉太公のまじりては 劉太公
 劉太公のまじりては 劉太公
 劉太公のまじりては 劉太公
 劉太公のまじりては 劉太公
 劉太公のまじりては 劉太公
 劉太公のまじりては 劉太公
 劉太公のまじりては 劉太公
 劉太公のまじりては 劉太公
 劉太公のまじりては 劉太公
 劉太公のまじりては 劉太公

劉太公のまじりては 劉太公
 劉太公のまじりては 劉太公



太公とれはむすあやのまじりては 劉太公
 るはむすあやのまじりては 劉太公
 るはむすあやのまじりては 劉太公
 るはむすあやのまじりては 劉太公
 るはむすあやのまじりては 劉太公
 るはむすあやのまじりては 劉太公
 るはむすあやのまじりては 劉太公
 るはむすあやのまじりては 劉太公
 るはむすあやのまじりては 劉太公
 るはむすあやのまじりては 劉太公

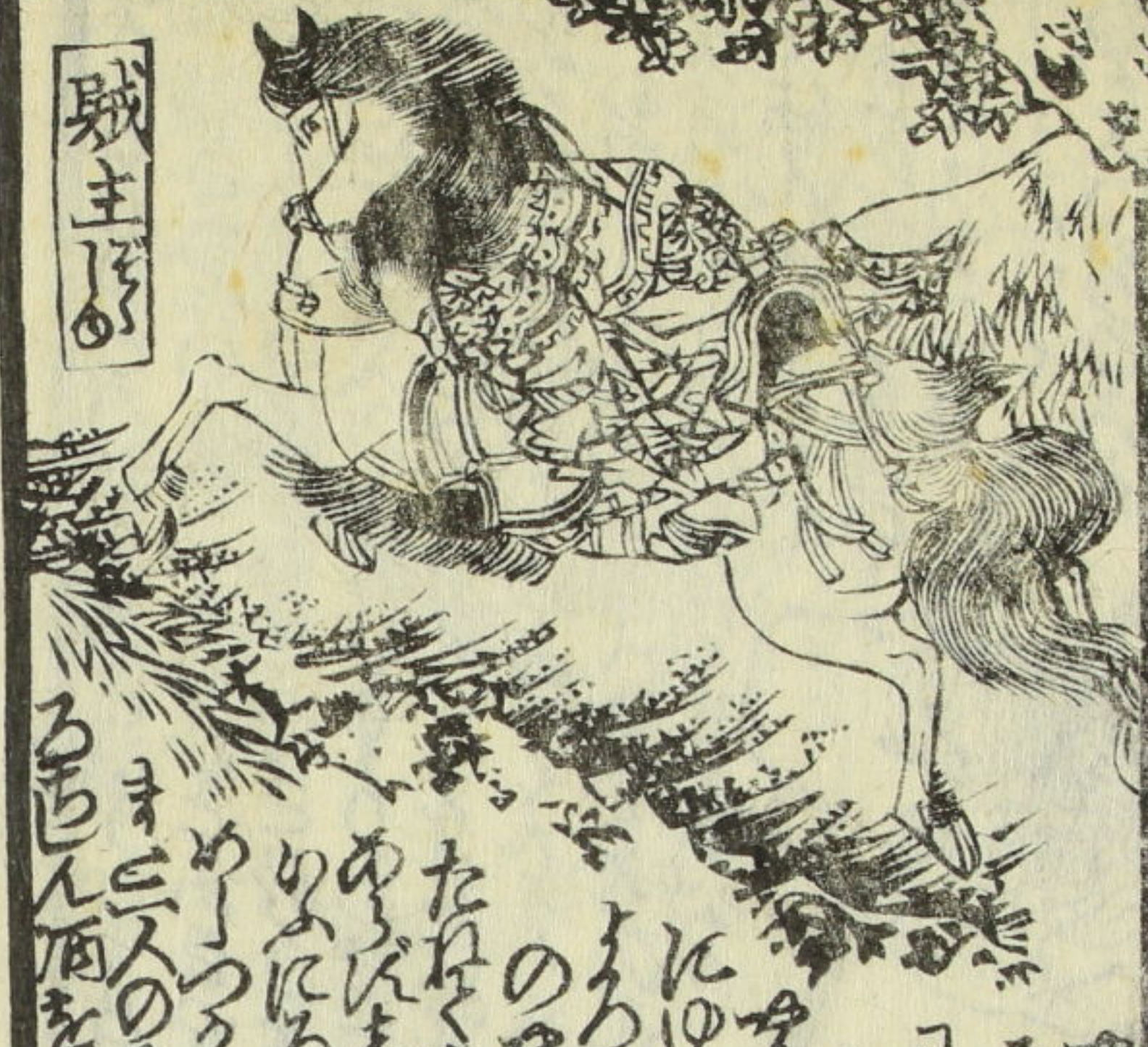
劉太公のまじりては 劉太公
 劉太公のまじりては 劉太公
 劉太公のまじりては 劉太公
 劉太公のまじりては 劉太公
 劉太公のまじりては 劉太公
 劉太公のまじりては 劉太公
 劉太公のまじりては 劉太公
 劉太公のまじりては 劉太公
 劉太公のまじりては 劉太公
 劉太公のまじりては 劉太公

劉太公のまじりては 劉太公
 劉太公のまじりては 劉太公

京山譯



國芳画團



賊主

このころもあつたしるもあつていふまゝかた
けられたるの太公直のまゝはあつたかたの
百せうとあつたかたのまゝはあつたかたの
とひなれらるあつたかたのまゝはあつたかたの
これとあつたかたのまゝはあつたかたの
いふまゝとあつたかたのまゝはあつたかたの
まゝとあつたかたのまゝはあつたかたの
いふまゝとあつたかたのまゝはあつたかたの
まゝとあつたかたのまゝはあつたかたの
いふまゝとあつたかたのまゝはあつたかたの

稗史水滸傳

山東京山譯
歌川國芳画
五新板中本袋入

風話脚引上戸

十返舎一九作
五新板全一冊

六樹園大人著 梅枝物語

梅枝物語の梅枝とある氣死虫等

笑話初子待

同 全一冊

新吉原

細見記 五葉松 中本全二冊
毎月改

笑話新形滌

同 全一冊

滑稽水滸傳

陽春閣戲作
北尾重政画
五新板中本三冊

笑話飄百集

飄亭百城作
全一冊

美豊山女香四十八綱

黒油美玄木白甲八綱

長唄ゆめを替替古本

諸色替替古本品々小巻

富本豊前大夫直傳正本所

江戸小傳馬町三丁目

新六行 義大夫拔本問屋

葛屋重三郎版

